

## 10号発刊に寄せて

松田 弘

「弘大地理」を発行しはじめて回を重ねること10号に及び、弘大地理学研究室の研究成果の発表も、いよいよ軌道に乗ってきたの感がある。この間にあって、地理学研究の改善になみなみならぬ意欲をもって努力していることを知り、心強く思うしだいである。

このような発展・推進には、横山・水野両先生をはじめ、各位の献身的な努力によることを目のあたり拝見している私には、ただただ感謝の念あるのみである。

最近の地理学では、記述地理学の段階から一歩進んで、空間整備や空間秩序の再構成を旨とする応用地理学・地域研究などにおいて、とくにめざましい研究成果があげられるようになった。

現代社会は、急速に変化発展している。安定の時代はすでに過去のものとなり、変化を常態とする地理的変貌期に突入している。わが国でも、町といわず村といわずに建設の槌音が鳴りひびき、国土の空間秩序は根本的に再構成されようとしている。このような時代における地理学研究には、現に進行している変化発展がどの方向に進もうとしているか、それが何を意味しているかなどを明らかにすることが要請される。

また、私見ではあるが、地理教育にたずさわる者として、地理学研究の視点として、「世界を背景にし世界とのつながりにおける日本の姿を認識し、国土を高度かつ合理的に利用することがたいせつであることを理解する」という広い視野に立った研究が、公教育のためにも一層の貢献となるであらうと考えるものである。

「弘大地理」を創刊号から順次あらためて通読して見ると、このような要請にこたえようとする努力がうかがわれる。

「弘大地理」の発展を祈るとともに、関係各位の生き生きとした体験に基づく研究や意見の開陳を希求してやまない。また、緊密な紐帯としての使命を果たすことも、本誌に寄せる大きな期待である。